



税の申告や納付に思ったこと

大田区立大森第十中学校 三年 住井 珠梨愛

私はこれまで、税金について深く考えることはありませんでした。けれども「税の申告や納付」というテーマで改めて調べてみると、自分の生活や社会の仕組みととても密接につながっていることに気づきました。

まず、税金は私たちの生活を支えるために使われているということです。道路や学校、病院といった公共の施設だけでなく、災害が起きたときの復興支援や、子育て支援、高齢者への医療や年金など、身近なところで多くの税金が活用されています。普段はそれを意識することが少ないですが、私たちが安心して暮らせるのは、きちんと税が集められ、それが必要どころに使われているからだと思いました。

その一方で、税の申告や納付は、国や自治体に任せきりではなく、納税者である私たち一人ひとりの責任として行うものだということも知りました。たとえば会社員であれば年末調整がありますが、自営業の人や副業をしている人は自分で確定申告をしなければなりません。正しく申告することで、公平に税を分担することができ、それが社会全体の信頼にもつながります。もし誰かが申告を怠ったり、意図的にこまかしたりすれば、

その分の負担がほかの人に回ってしまうことになります。そう考えると、税の申告や納付は単に「お金を払う」ということ以上に、社会の一員としての責任を果たす大切な行為なのだと感じました。

また、最近はインターネットで申告ができる「e-Tax」などの仕組みが整っていて、以前よりも便利になっていることも知りました。税金というと「難しくて大変そう」というイメージが強かったのですが、こうした制度が広がることで、誰でも正しく簡単に申告できる環境が整えられているのは良いことだと思います。技術の進歩によって、申告や納付がより身近になり、納税者が積極的に関わりやすくなることは、とても大切なことだと感じました。

税金は目に見えにくい形で私たちの生活を支えているので、日常の中で「払っている」という実感がうすいこともあります。しかし、学校に通うことができるのも、病院に安心して行けるのも、街の安全が守られているのも税金のおかげです。だからこそ、申告や納付を通して自分の役割を果たすことは、社会に参加していることの証明でもあると思いました。

これから社会人になるにあたって、税金をきちんと理解し、正しく申告や納付をしていくことが必要になります。それは単なる義務ではなく、安心して暮らせる社会をみんなで支えるための大切な行動です。今回の学びをきっかけに、税に対して「取られてしまうもの」という受け身の考えではなく、「社会をつくるために自分も担っている」という前向きな意識を持ちたいと思いました。